

推計人口及び将来展望推計人口について

令和2年5月

行政経営課

目次

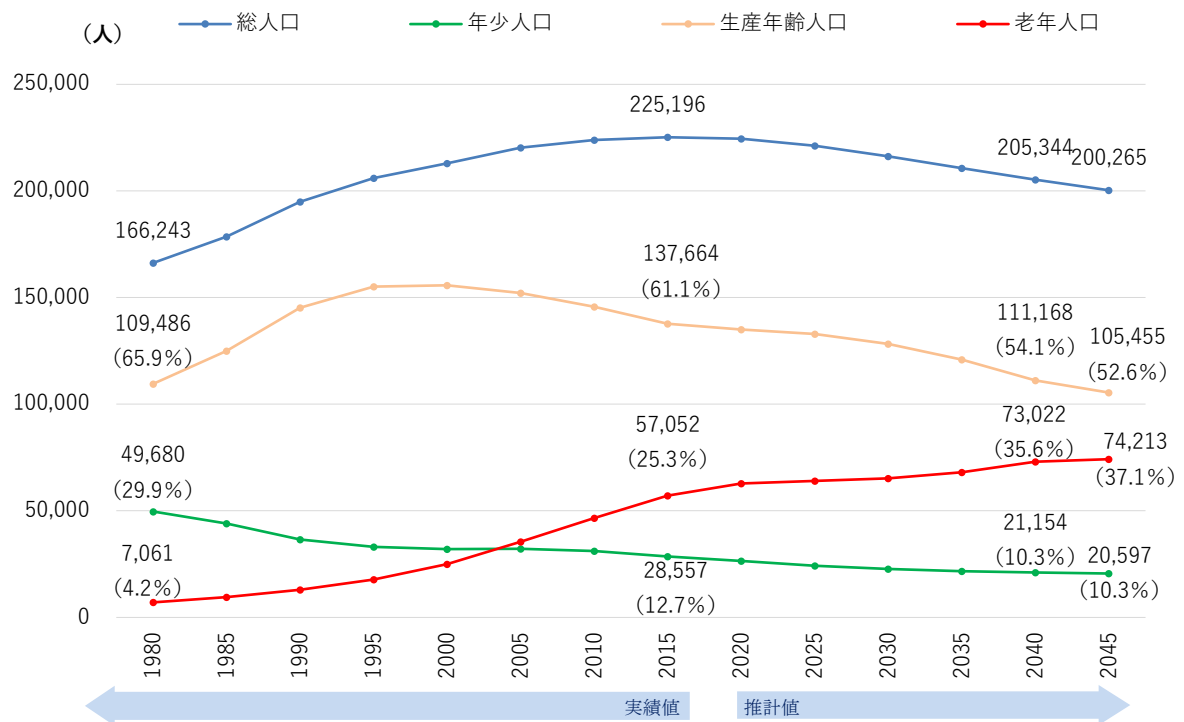
1. 本市の人口の推移と推計	1
(1) 人口の推移と推計	1
(2) 年齢5歳階級別人口の構成比の推移と推計	3
(3) 年齢3区分別人口の構成比の推移と推計	4
(4) 人口動態の推移	5
(5) 年齢階級別純移動数の推移	6
(6) 世帯数の推移	7
2. 本市の将来展望	8
(1) 将来展望推計人口	8
(2) 前期長期ビジョンとの比較	10
(3) 将来展望推計人口を推計するにあたっての条件設定	11

1. 本市の人口の推移と国の推計

(1) 人口の推移と国（社人研）推計

- 人口の推移等の状況を分析するにあたっては、多様な統計データが得られ、かつ、他市との比較が容易な国勢調査の数値を用いることとします。
- 本市の総人口を国勢調査からみると、1980年に166,243人だった人口は順調に増加し、2015年は225,196人となっています。
- しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計によれば、総人口は今後減少に転じ、緩やかに減り続けて2045年には200,265人になるとされています。
- 年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は減少し続ける一方で、老年人口（65歳以上）は増加し続けており、2045年には高齢化率が37.1%になると推計されています。

図表 人口の推移と社人研推計（国勢調査ベース）



資料：総務省「国勢調査」2015年、

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018年

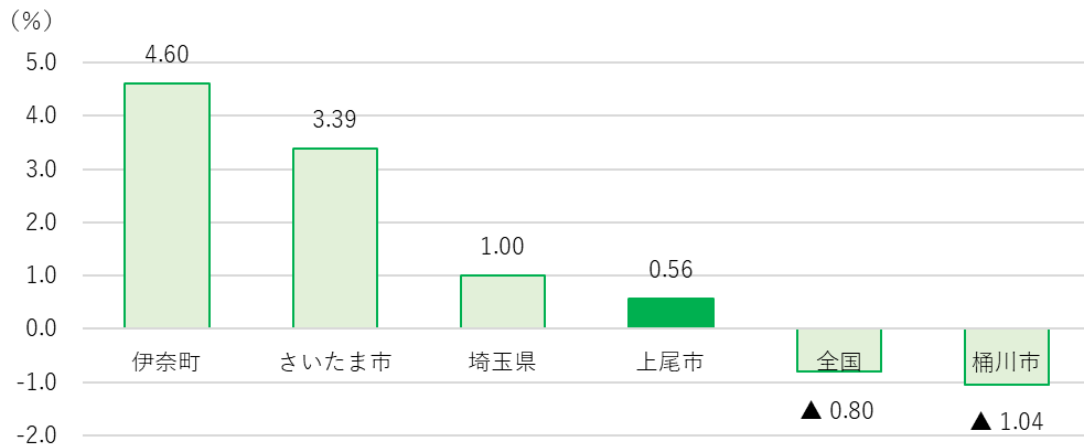
※2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月）に基づく推計値

※年齢3区分別の構成比は小数点以下を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%になりません。

(参考) 人口増減率の比較

- 本市の 2010 年から 2015 年の人口増減率は 0.56% でプラスですが、比較都市と比較すると、小幅な伸びにとどまっています。

図表 人口増減率の比較 (2010→2015 年)

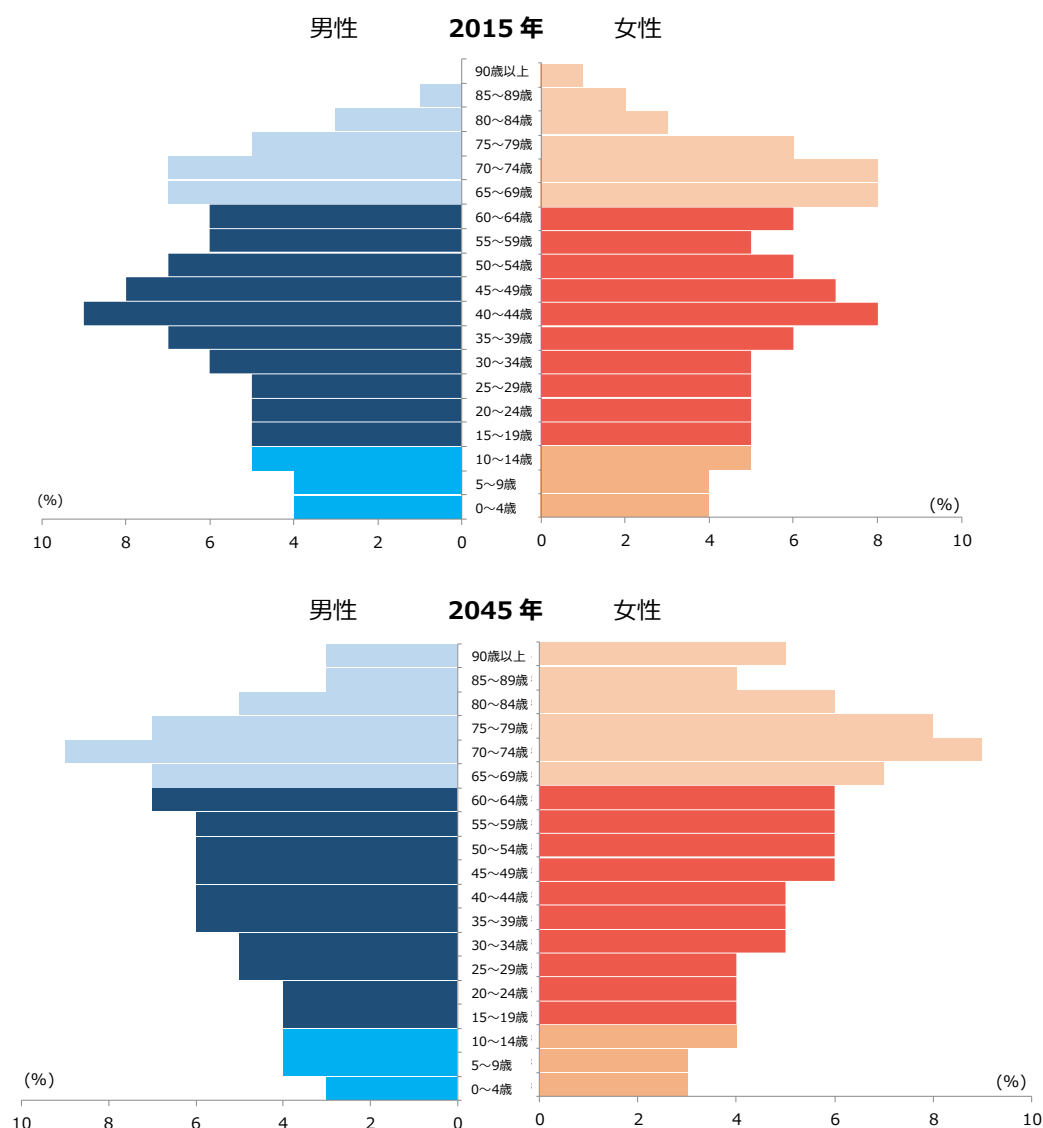


資料：総務省「国勢調査」2015 年

（２）年齢５歳階級別人口の構成比の推移と推計

- 男女別・５歳階級別人口の構成比をみると、生産年齢では、2015年の時点ですでに、15～19歳、20～24歳、25～29歳が最も少なくなっており、この傾向は2045年もほぼ変わらない見通しです。
- 最も多い年齢階級は、2015年時点では65～69歳、70～74歳及びそれを支える40～44歳ですが、2045年には70～74歳が最も多くなり、それを支える世代が減少することが分かります。

図表 年齢５歳階級別人口の構成比の推移と推計

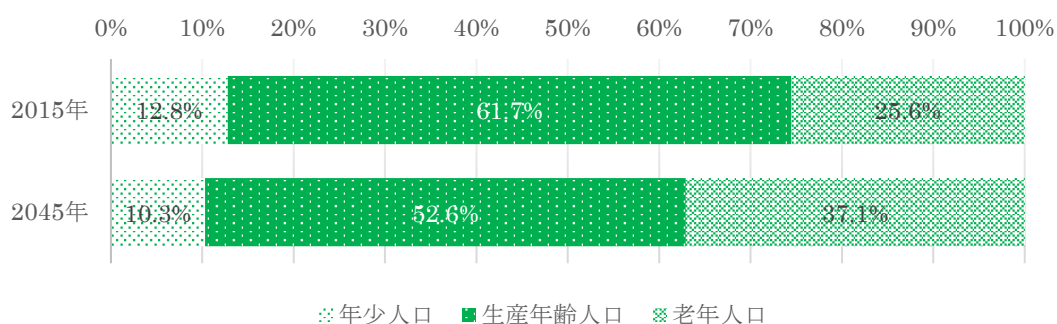


資料：総務省「国勢調査」2015年、
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018年
 ※2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月）に基づく推計値

（３）年齢３区分別人口の構成比の推移と推計

- 本市の年齢３区分別人口をみると、2015年は年少人口が12.8%、生産年齢人口が61.7%、老年人口が25.6%となっていますが、2045年は年少人口が10.3%、生産年齢人口が52.6%と減少し、老年人口が37.1%と増加することが推計されます。
- 県全体では、年少人口が12.6%、生産年齢人口が62.5%、老年人口が24.8%で、上尾市と大きな差異はありません。

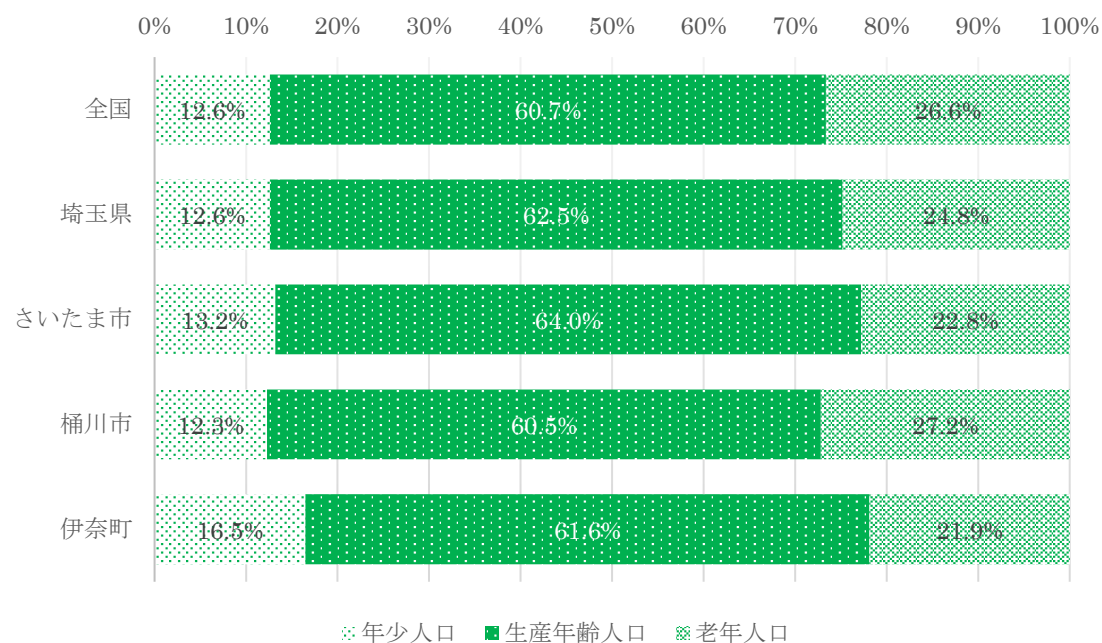
図表 年齢３区分別人口の構成比の推移と推計



資料：総務省「国勢調査」2015年

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018年

（参考）他市町村年齢３区分人口の構成比（2015年）

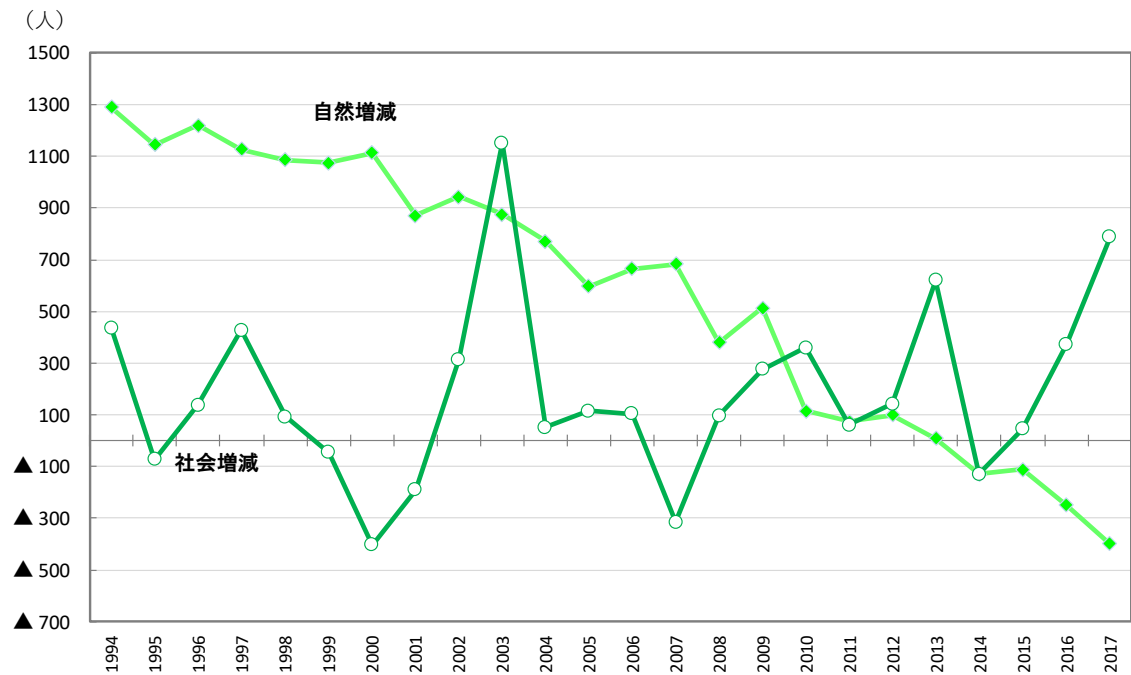


資料：総務省「国勢調査」2015年

（４）人口動態の推移

- 本市の人口動態の推移をみると、2014 年以降は死亡者数が出生者数を上回る自然減の傾向が続いています。
- 一方、社会増減については、年によって大きく異なるものの、概ね転入者数が転出者数を上回る社会増の傾向が続いています。

図表 自然増減・社会増減の推移



（人）

年	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
出生者数	2,216	2,152	2,176	2,143	2,124	2,192	2,241	2,067	2,114	2,083	2,064	1,953
死亡者数	926	1,006	956	1,016	1,037	1,118	1,127	1,196	1,171	1,207	1,292	1,355
自然増減	1,290	1,146	1,220	1,127	1,087	1,074	1,114	871	943	876	772	598
転入者数	11,917	11,615	11,444	11,457	10,615	10,849	10,168	10,314	10,141	10,933	9,893	9,872
転出者数	11,481	11,688	11,305	11,030	10,523	10,894	10,571	10,504	9,826	9,781	9,840	9,757
社会増減	436	▲ 73	139	427	92	▲ 45	▲ 403	▲ 190	315	1,152	53	115

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
出生者数	2,031	2,063	1,875	1,948	1,738	1,762	1,754	1,768	1,742	1,732	1,622	1,533
死亡者数	1,366	1,380	1,495	1,434	1,623	1,687	1,654	1,758	1,871	1,842	1,872	1,932
自然増減	665	683	380	514	115	75	100	10	▲ 129	▲ 110	▲ 250	▲ 399
転入者数	9,786	9,429	9,159	9,240	8,854	8,691	8,989	9,555	8,627	9,099	9,299	9,544
転出者数	9,681	9,743	9,062	8,965	8,495	8,631	8,846	8,935	8,756	9,054	8,925	8,757
社会増減	105	▲ 314	97	275	359	60	143	620	▲ 129	45	374	787

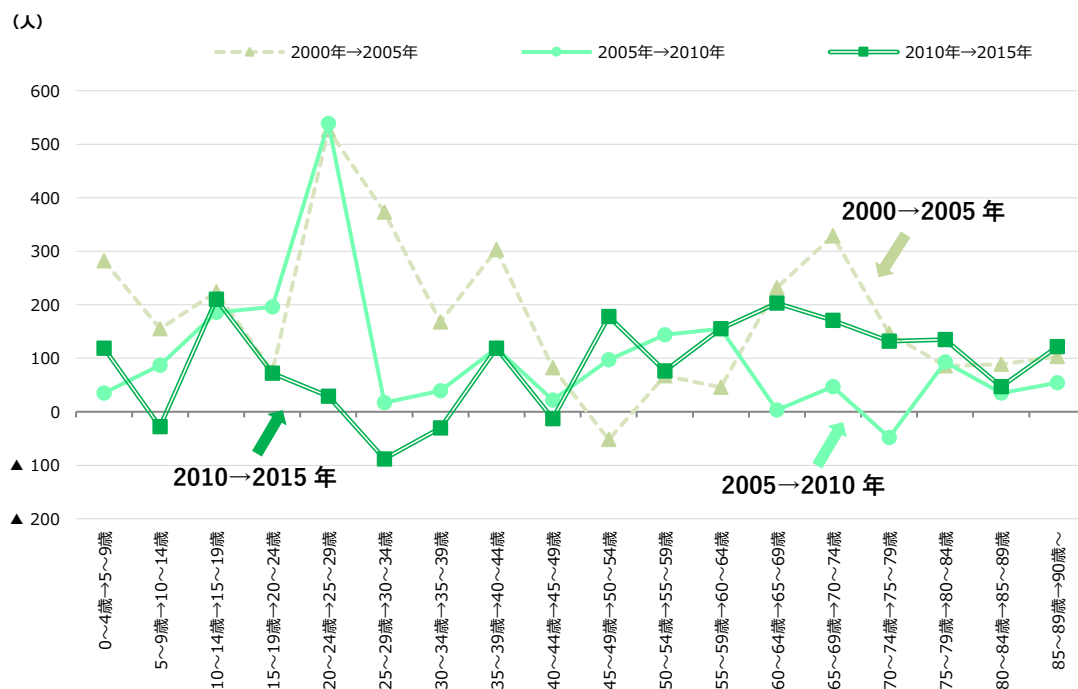
資料：上尾市「住民基本台帳」各年

（５）年齢階級別純移動数の推移

- 年齢階級別の純移動数（転入者と転出者の増減数）の推移をみると、2000～2010 年までは、40 歳未満の階級の人口増加が顕著でしたが、2010～2015 年の 5 年間では、この階級の増加が小幅に転じています。また、25～29 歳、30～34 歳については、2000～2010 年は、純移動数がプラスにとどまっていたましたが、2010～2015 年は、マイナスとなっています。全体として、若い世代の流入が減ってきていると考えられます。
- 一方、45 歳以上の階級の人口については、2010～2015 年はどの年代でも純移動数がプラスになっているほか、60 歳以上の階級の人口は、いずれの年代も 2005～2010 年の純移動数を上回っており、高齢者を中心に流入が増えていると考えられます。

図表 年齢階級別純移動数の推移

（例）2000～2005 年の間には、0～4 歳の集団は 5～9 歳の集団になります（0～4 歳→5～9 歳）。折れ線は、その期間における当該集団の純移動数を示しています。

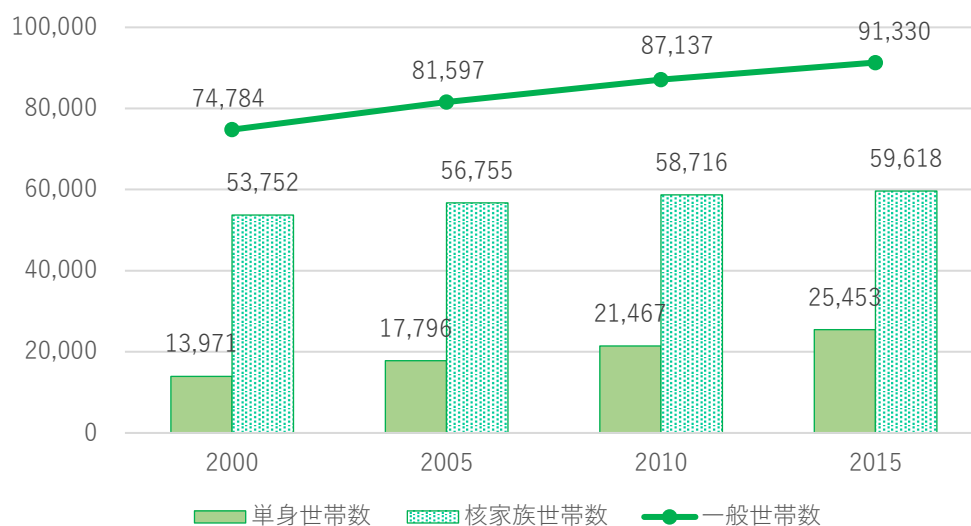


資料：総務省「国勢調査」2015 年

（６）世帯数の推移

- 本市の世帯数は、2000年時点では74,784世帯でしたが、2015年には91,330世帯となっており、増加傾向にあります。また、内訳を見ると、単身世帯数、核家族世帯数ともに増加しています。

図表 世帯数の推移



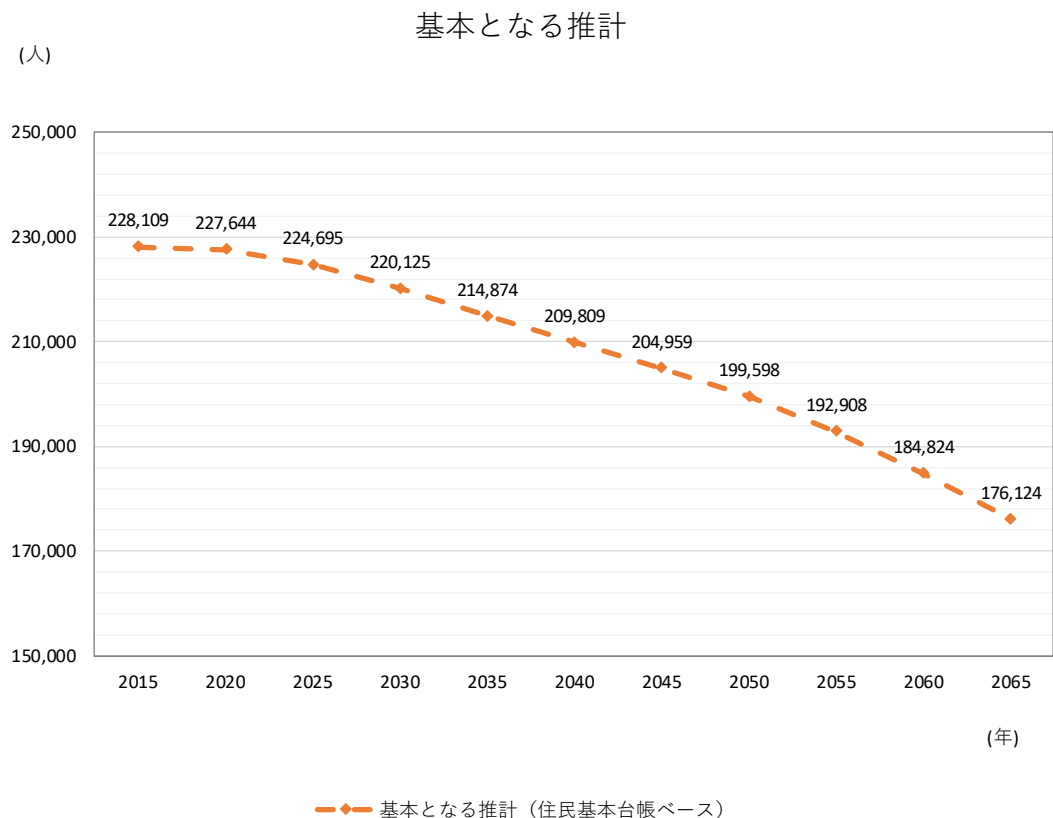
資料：総務省「国勢調査」各調査年

2. 本市の将来展望人口

(1) 基本となる推計（住民基本台帳人口ベース）

- 使用するデータは、住民基本台帳が 行政サービスを受ける ための 基本的な条件となることや、国勢調査に比べ最新のデータであること等を踏まえ、住民基本台帳人口を使用しています。
- 将来展望人口の推計に先立ち、ここでは、基本となる推計（住民基本台帳人口ベース）を示します。この推計は、3 ページに示した社人研推計（国勢調査ベース）に準拠し、住民基本台帳人口ベースで再推計したものです。
- 具体的には、第 1 期人口ビジョンが住民基本台帳人口ベースで算出されていることから基準人口を国勢調査ベースから住民基本台帳ベースに置き換え、かつ、合計特殊出生率・純移動率といった仮定値は社人研推計と同じ値を用い、2065 年まで推計したものと なっています。
- その結果、本市の人口は、2015 年の 228,109 人^{*}が、2045 年に 204,959 人に減少するものと見込まれます。（13 ページの (ウ) に該当）

図表 基本となる推計（住民基本台帳人口ベース）



住民基本台帳人口（2015 年 10 月 1 日）を基準人口とし、社人研推計の仮定値を用い再推計

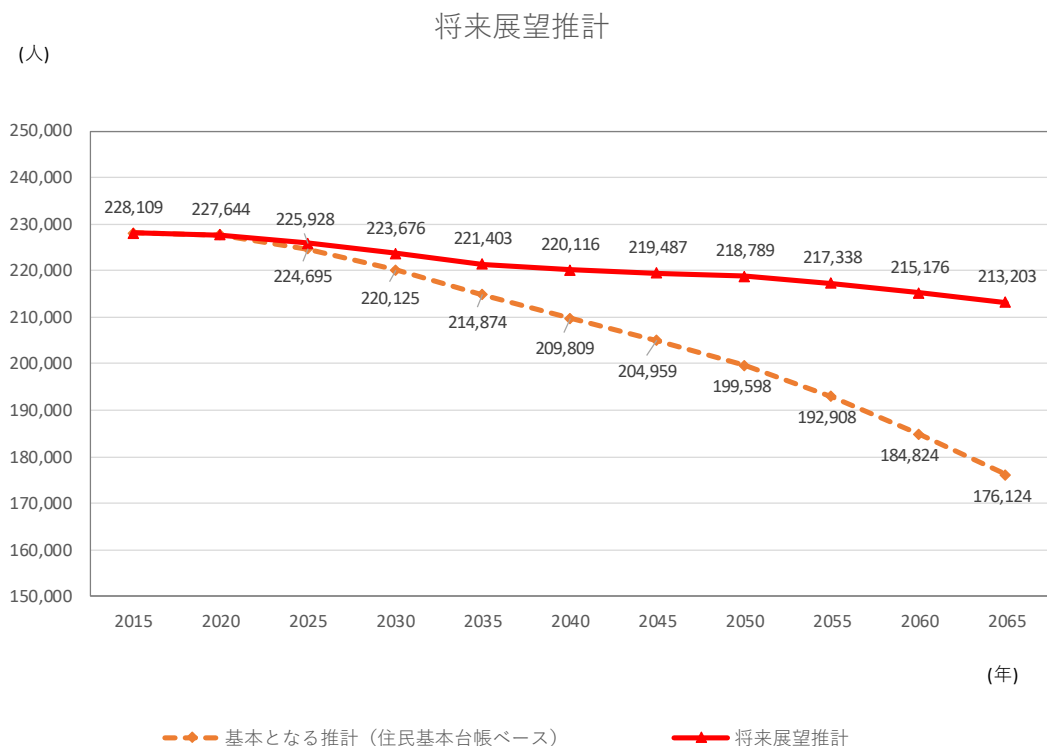
（２）将来展望推計

- ここでは、（１）に示した基本となる推計（住民基本台帳人口ベース）の結果を踏まえ、上尾市の将来を展望した推計結果を示します。具体的には、合計特殊出生率が 2045 年までに 2.07 に回復すると仮定した推計を行います。
- 結婚や出産はあくまで個人の自由な意思によるものであり、行政の施策によって直接的に合計特殊出生率を向上させるものとはいえません。しかしながら、国・県・の戦略並びに本戦略における、少子化対策に関する施策の展開によって、まずは市民の出産の希望が実現し、次に、2045 年までに、合計特殊出生率が国の「第 2 期まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」に示された水準である 2.07 に回復するものと仮定します。
- この将来展望推計では、2045 年の人口は 219,487 人となり、（１）に示した基本となる推計（住民基本台帳人口ベース）と比較して、人口減少が緩和するものと見込まれます。（13 ページの（エ）に該当）

将来展望推計による人口（2045 年）

		総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
第 二期	基本となる推計	204,959	21,170	108,552	75,237
	将来展望推計	219,487	31,942	112,308	75,237
	差引（増加率）	14,528(7.1%)	10,772(50.9%)	3,756(3.5%)	0(0%)

図表 将来展望推計



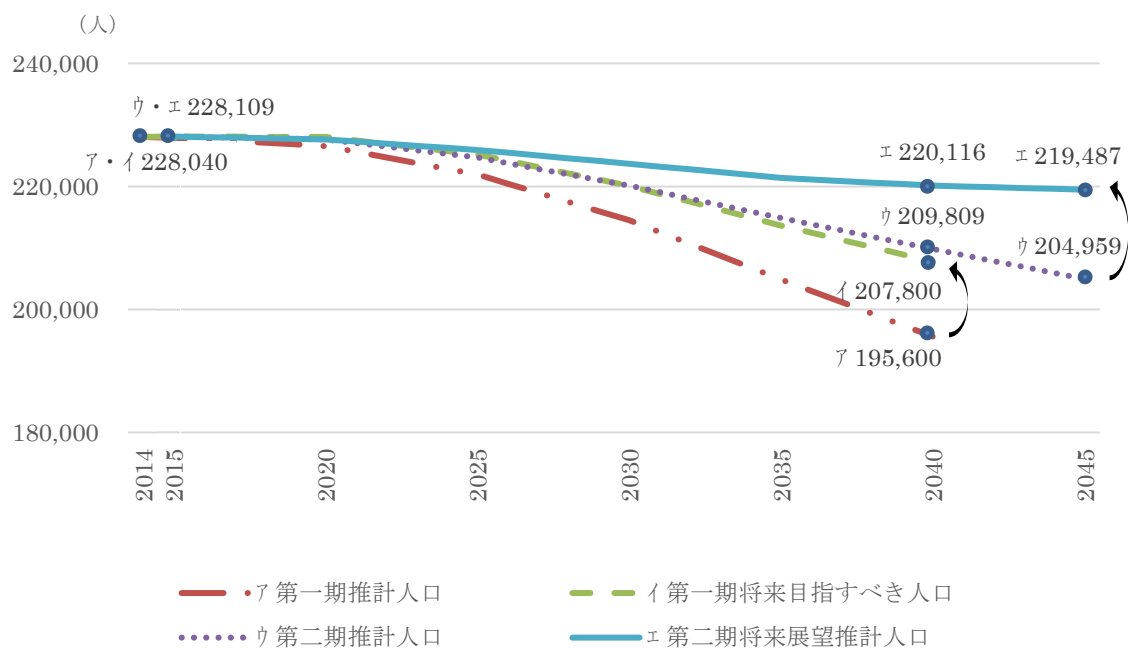
（３）第一期長期ビジョンとの比較

- 第一期長期ビジョン（以下、「第一期」という。推計期間は 2040 年まで）における推計結果と、第二期長期ビジョン（本ビジョン。以下、「第二期」という）における推計結果を、2040 年時点で比較します。
- 次の通り、第二期における推計では総人口が上方修正される結果となっています。この理由は、2010 年以降の上尾市人口動向が、社人研仮定値に反映された結果と考えられます。
- なお、表中の人口は全て住民基本台帳ベースであり、第一期における推計人口・将来目指すべき人口は、第二期における基本となる推計人口・将来展望推計人口と、それぞれ概ね同義です。

第一期長期ビジョンとの比較（2040 年）

		総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
第一期	推計人口	195,600	19,700	108,700	67,200
	将来目指すべき人口	207,800	26,800	113,700	67,300
	差引（増加率）	12,200(6.2%)	7,100(36.0%)	5,000(4.6%)	100(0.1%)
第二期	基本となる推計人口	209,809	21,811	114,288	73,710
	将来展望推計人口	220,116	30,824	115,582	73,710
	差引（増加率）	10,307(4.9%)	9,013(41.3%)	1,294(1.1%)	0(0%)

図表 本市の人口の推移と長期的な見通し（まとめ）



（参考）人口を推計するにあたっての仮定値等の設定

- 推計にあたっては、将来人口に大きな影響を及ぼす「合計特殊出生率」と「純移動率」に着目するものとし、双方を個別にシミュレーションできる「コーホート要因法」を用いています。
- なお、これらの推計においては、仮定値のうち「生残率」「0～4歳性比」については、本市独自の施策投入によって変化を促せる余地が少ないと考えられるため、社人研仮定値（平成30年推計）を採用しています。

図表 人口推計にあたっての仮定値等の設定

		①基準人口	②合計特殊出生率	③純移動率
第一期	推計人口における推計	2014年10月1日住民基本台帳	2014年の子ども女性比の実績値0.18297が維持されると仮定	社人研仮定値（平成25年推計）を採用
	将来目指すべき人口における推計		2044年に子ども女性比が0.2559になると仮定	社人研仮定値（平成25年推計）をベースに、純移動率がマイナスとなっている男性の30歳代前半・40歳代前半、女性の20歳代後半・30歳代前半について、純移動率がゼロに向かう（転入者数と転出者数が均衡に向かう）と仮定
第二期	基本となる推計	2015年10月1日住民基本台帳	2015年の合計特殊出生率の実績値1.43が、社人研仮定値（平成30年推計）のとおり2045年に1.36071になると仮定	社人研仮定値（平成30年推計）を採用
	将来展望人口推計		2015年の合計特殊出生率の実績値1.43が、2045年に2.07になると仮定	同上

①基準人口の考え方

本市における総人口等を推計にするにあたり、住民基本台帳人口を用います。

②合計特殊出生率の考え方

合計特殊出生率とは、女性が一生の間に産む子どもの数のことをいいます。第二期では、国の長期ビジョンにおける考え方を踏まえ、2045年に人口置換水準 2.07 に回復するものと仮定しています。

なお、第一期では、市町村の合計特殊出生率は年毎の変動が大きいことから、子ども女性比（15～49歳女性人口と0～4歳人口の比）を代替指標としていました。第二期では、社人研推計並びに埼玉県・県内他市の推計事例に倣い、合計特殊出生率を用いています。

			(基準) 2015 年 ※1	2030 年	2040 年	2045 年
国	目指す方向 ※2	合計特殊出生率	1.45	1.80	2.07	—
		伸び率	1.00	1.24	1.43	—
上 尾 市	基本となる 推計	合計特殊出生率	1.43	1.34861	1.35818	1.36071
		伸び率	1.00	1.24	1.43	1.45
	将来展望推 計※3	合計特殊出生率	1.43	1.77	2.04	2.07

※1 基準人口と同様に 2015 年の合計特殊出生率を基準とします。

※2 国は、合計特殊出生率を、2030年に現在の国民希望出生率である 1.80 とし、2040年に人口置換水準である 2.07 とすることを目標としています。

※3 本市においても国と同じ伸び率で合計特殊出生率を推移させると、2045年に人口置換水準である 2.07 となります。

- ・ 国民希望出生率：(有配偶者割合×夫婦の予定子ども数＋独身者割合
×独身者のうち結婚を希望する者の割合×独身者の希望子ども数)
×離死別等の影響
＝ (32.0%×2.01 人＋68.0%×89.3%×2.02 人) ×0.955
＝1.79
≒1.8 程度
- ・ 人口置換水準：社会動態（転入・転出）による人口変動がゼロと仮定したとき、
自然動態（出生・死亡）による人口変動もゼロとなり、人口規模が
維持される出生率の水準

③純移動率の考え方

ここでいう純移動率とは、ある年の母集団の数に対する、5年間の純移動数（転入者数と転出者数の差）の割合を示す値です。下表の場合、例えば0～4歳→5～9歳、→2020年の欄は、「2015年に0～4歳であった市民の場合、2015年～20年の5年間における純移動率は0.01352、つまり1.352%の増加（＝転入超過）となっている」と理解できます。

社人研の仮定値（平成30年推計）をみると、本市における2045年の純移動率はいずれの年齢階級でも概ねプラスの数値（＝転入超過）となっていることから、これを維持することとします。

社人研仮定値（平成30年推計）における本市の純移動率

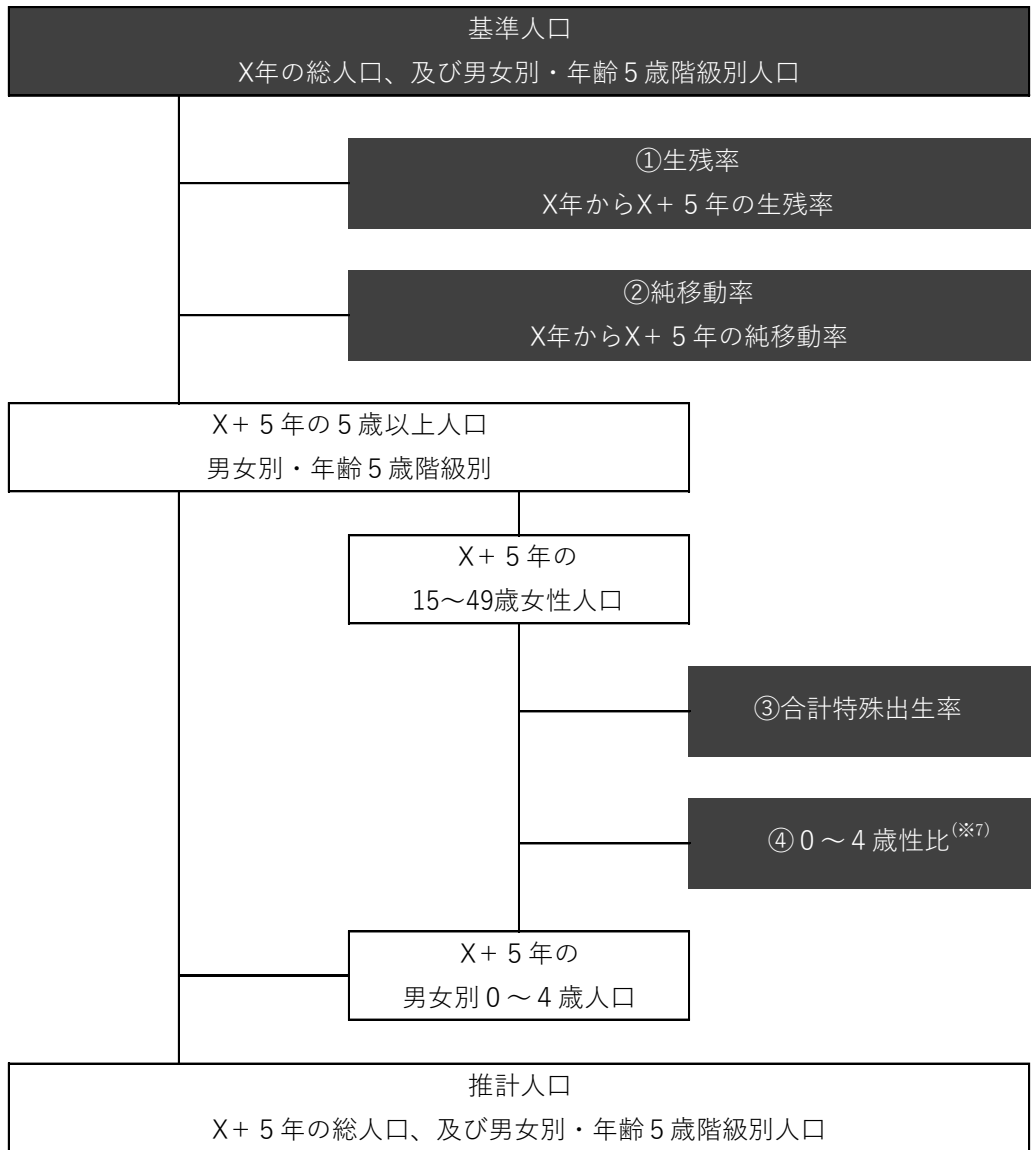
純移動率・男

	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年
0～4歳→5～9歳	0.01352	0.01886	0.02515	0.03179	0.03769	0.04283
5～9歳→10～14歳	▲0.00569	▲0.00338	▲0.00224	▲0.00074	0.00080	0.00214
10～14歳→15～19歳	0.00916	0.01066	0.01252	0.01348	0.01475	0.01591
15～19歳→20～24歳	0.01113	0.01466	0.02031	0.03033	0.03257	0.03520
20～24歳→25～29歳	0.03277	0.03255	0.03969	0.05261	0.07576	0.08240
25～29歳→30～34歳	0.02382	0.03064	0.02738	0.03109	0.03789	0.05172
30～34歳→35～39歳	0.00882	0.01800	0.02242	0.01949	0.02071	0.02369
35～39歳→40～44歳	0.00711	0.01145	0.01508	0.01846	0.02002	0.02242
40～44歳→45～49歳	▲0.00458	▲0.00387	▲0.00155	0.00068	0.00252	0.00323
45～49歳→50～54歳	0.00282	0.00330	0.00943	0.01362	0.01455	0.01163
50～54歳→55～59歳	0.00711	0.00427	0.00394	0.00832	0.01148	0.01211
55～59歳→60～64歳	0.01469	0.01714	0.01501	0.01410	0.01857	0.02215
60～64歳→65～69歳	0.00851	0.01292	0.01433	0.01267	0.01195	0.01531
65～69歳→70～74歳	0.00653	0.00506	0.00789	0.01113	0.01185	0.01106
70～74歳→75～79歳	0.00784	0.00927	0.00657	0.00939	0.01232	0.01289
75～79歳→80～84歳	0.00657	0.00639	0.01529	0.01186	0.01445	0.01366
80～84歳→85～89歳	0.00026	▲0.00949	▲0.00999	0.00170	▲0.00376	▲0.00020
85歳以上→90歳以上	0.05245	0.03451	0.01835	0.01482	0.02782	0.00683

純移動率・女

	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年
0～4歳→5～9歳	0.02150	0.02837	0.03482	0.04162	0.04761	0.05280
5～9歳→10～14歳	0.00204	0.00443	0.00618	0.00807	0.01000	0.01167
10～14歳→15～19歳	0.01432	0.01565	0.01669	0.01787	0.01890	0.01979
15～19歳→20～24歳	0.01062	0.01565	0.02478	0.02961	0.03220	0.03530
20～24歳→25～29歳	0.01177	0.00319	0.01369	0.03330	0.04480	0.05110
25～29歳→30～34歳	▲0.00007	0.00625	▲0.00207	0.00487	0.01726	0.02581
30～34歳→35～39歳	▲0.00001	0.01274	0.01938	0.01446	0.01730	0.02250
35～39歳→40～44歳	0.00358	0.00897	0.01418	0.01827	0.01984	0.02159
40～44歳→45～49歳	0.00148	0.00413	0.00708	0.01004	0.01237	0.01326
45～49歳→50～54歳	0.01254	0.01227	0.01967	0.02307	0.02572	0.02318
50～54歳→55～59歳	▲0.00226	▲0.00295	▲0.00305	0.00207	0.00586	0.00650
55～59歳→60～64歳	▲0.00099	0.00351	0.00312	0.00298	0.00789	0.01166
60～64歳→65～69歳	0.00113	0.00334	0.00741	0.00752	0.00725	0.01169
65～69歳→70～74歳	0.00893	0.00808	0.01000	0.01326	0.01611	0.01631
70～74歳→75～79歳	0.00125	0.00610	0.00537	0.00730	0.00959	0.00810
75～79歳→80～84歳	▲0.00348	▲0.00777	▲0.00051	▲0.00139	0.00559	0.00349
80～84歳→85～89歳	▲0.00745	▲0.02431	▲0.03105	▲0.02009	▲0.02266	▲0.01251
85歳以上→90歳以上	0.03713	0.02310	0.00237	▲0.00621	0.00473	▲0.01379

参考図表 コーホート要因法の手順（丸数字は仮定値）



(※7) 0～4歳女性人口100人あたりの0～4歳男性人口